



みなとからの風

〒231-8682 横浜市中区新山下3-12-1 / TEL 045-628-6100(代)
http://www.yokohama.jrc.or.jp/

●発行：2018年5月 医療連携センター

Contents

■救急部の診療体制 1	■当院の内視鏡治療について 6
	■当院の乳腺外科治療の変遷 6

救急部の診療体制

救急部 部長 中山 祐介

当院救急部は日本救急医学会認定の指導医1名、専門医3名を含む、合計10名のスタッフを中心に、「断らない救急」を目標に奮闘しています。その結果、救急車の受け入れ台数は年間12,000台を超え、救急隊からの応需率も約99%を達成し、全国でもトップクラスの実績を上げています。このように断らない救急を実践する上で最も大切なのは、救急科以外の診療科の協力は当然ですが、看護部などの他部門とも協力しながら、病院全体で地域の救急医療を支えるという強い信念です。その信念の下に、診療時間外であっても、一人でも多くの患者さんに安心してもらえる医療が提供できるように努めています。そして平成28年度からは、より早い段階から重症患者に医療が提供できるように、横浜市消防局の協力の下、救急現場へ医療スタッフを派遣するYMAT (Yokohama Medical Ambulance Team) 事業を開始し、病院前救護にも力を入れています。

また当院は災害拠点病院であるため、平時から災害医療体制の構築・準備にも力を入っており、日赤救護班の班員や、日本DMAT (Disaster

Medical Assistant Team) や神奈川IDMAT-L隊員を養成し、各種の訓練に参加しています。実際の自然災害においても、先の茨城県常総市の水害では水没した病院からの患者避難を支援し、熊本地震では被災病院の診療支援や避難所における救護所運営、蔓延する感染症への公衆衛生活動など、災害急性期から慢性期に至るまでの医療救護活動を行いました。また、2020年のオリンピック・パラリンピックを念頭においた、警察・消防、横浜市などの行政機関と連携したテロ対策訓練や勉強会も行っており、様々な自然災害や局地災害、テロなどに対応すべく、諸機関との関係構築に取り組んでいます。中でも当院の特色は洋上での救急事案を想定して海上保安庁との連携を図っている点で、毎年、特殊救難隊 (いわゆる海猿) などとともに、船舶からの要救助者の受け入れ訓練も行っており、実際に船舶からの重症患者の受け入れもスムーズにできるようになりました。

このような幅広い救急医療活動を病院の理念として行っていくためには、救急部以外の診療科の医師や看護師などと救急現場での知識や技術の共有が欠かせません。そのために、突然の心肺停止に対応するICLSコースやJMECCコース、重症外傷患者に対応するJATECコースなどを開催し、多職種協同のチーム医療の実践を行っています。また医師会の協力の下、地元住民への心肺蘇生法講習会の開催や医学部への進学を目指す地元の高校生の就業体験など、地域の方々へ少しでも還元できるような活動も行っています。

「断らない救急医療」は様々な部門や機関に加えて、地域の方々の協力がないと成立しません。まだまだ発展途上ではありますが、今後ともご支援ご協力のほど、よろしくお願いいたします。



救急部メンバー

当院の内視鏡治療について

当科の内視鏡治療は、消化管領域と胆膵領域に分けられます。

消化管領域では食道、胃、大腸、十二指腸に対してESD（内視鏡的粘膜下層剥離術）を積極的に行っております。ESDは内視鏡下に電気メスで病変を周囲粘膜から筋層の直上まで剥離する治療で、体の負担が少なく、臓器もそのまま残るので術後の食生活に影響を及ぼさないため非常に低侵襲な治療です。当科では2017年度に食道14件、胃70件、大腸25件、十二指腸4件のESDを施行しております。毎年件数も増加しており、胃は週刊誌の関東の治療件数のランキングに掲載されました。さらに最近では外科、耳鼻咽喉科と協力して腹腔鏡内視鏡合同手術（LECS）や内視鏡的咽喉頭手術（ELPS）も行っております。これまで内視鏡治療のみでは困難であった胃GIST、早期十二指腸癌や口腔、咽頭表在癌も低侵襲な治療を行う事が可能となっております。

胆膵系領域ではERCP関連の処置を年間400-500件施行

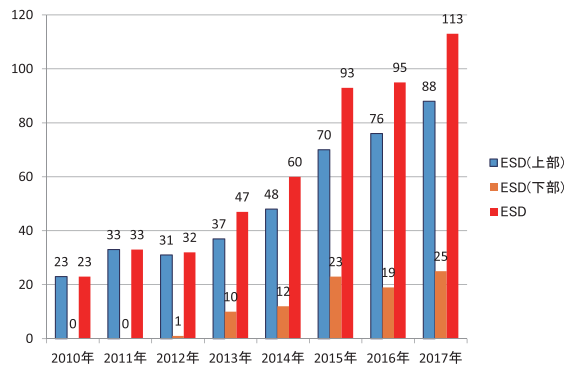
消化器内科 医長 池宮城 秀和

しています。胆道系の疾患は緊急性が高い事も多く夜間や休日にも施行しております。最近では膵癌、消化管粘膜下腫瘍に対する超音波内視鏡（EUS）を用いた診断、治療も積極的に取り入れています。これまで膵癌や粘膜下腫瘍は組織診断が難しく画像診断する事が多いとされてきましたが、超音波内視鏡下穿刺吸引法（EUS-FNA）により膵癌や消化管粘膜下腫瘍を組織学的に診断し必要な手術や抗癌剤を選択する事が可能となりました。2017年度のEUS-FNAは49件でした。

当科は患者様に低侵襲で治療効果の高い内視鏡治療を提供できるように日々精進しております。地域の医療機関の先生方におかれましては内視鏡治療が必要な患者様がおられれば、お気軽に当科にご紹介頂ければ幸いです。これからも何卒宜しくお願い申し上げます。



消化器内科医師メンバー



ESD件数推移

当院の乳腺外科治療の変遷

おかげさまで、乳腺外科開設6年目を迎えることができました。病院やクリニックの先生方には、深く御礼申し上げます。

現在日本では、年間9万人近くの女性が乳がんと診断され、一生涯では11人に1人が乳がんになるとされています。乳がんには、若年で発症することが多いこと、整容性が求められること、遺伝との関連が一部わかっていること



乳腺外来内の情報ルーム

乳癌に関する情報冊子や本、インターネット端末などがございます。



<http://www.yokohama.jrc.or.jp/breast-surgery/index.html>
乳腺外科専用ホームページ

乳腺外科 部長 清水 大輔

など、さまざまな特徴があります。乳がんと診断された患者さんは、がんの悩みだけでなく、仕事、子育て、妊娠、見た目など多くの問題を抱えることとなります。

当院では2013年に乳腺外科を開設し、乳がんの専門的な診療を開始しました。最先端の診断や治療を提供するのはもちろん、“その患者さんらしい生き方をサポート”ということを目指し、診療を行ってまいりました。

乳房再建外来、遺伝カウンセリング外来、リンパ浮腫外来といった専門外来の開設とともに、看護師による不安のスクリーニング、心理士による心理的サポート、薬剤師による薬の説明、相談支援センターでの就労支援といったチームで患者さんを支える仕組みが出来上がってまいりました。おかげさまで、乳がん手術症例数も6年前の42例から、昨年は219例と増加し、医療者のスキルも大きく改善したと考えております。患者さん同士で支えあう、乳がん患者会“ひまわりの会”も月一回開催され、本年度で発足5年を迎えます。

今後も、患者さんに寄り添う、より良い医療を目指し、医療者一同精進してまいりたいと思っております。

乳腺という限られた領域ではございますが、直接のお電話でも結構です。お気軽にご相談いただければと思います。今後とも、みなと赤十字病院・乳腺外科をよろしく宜しくお願い申し上げます。

紹介患者さんのお問い合わせご予約は医療連携課で承ります

電話 045-628-6365(直通) / FAX 045-628-6367(直通FAX) 受付時間 平日 8:30 ~ 17:00



日本赤十字社

横浜市立みなと赤十字病院

〒231-8682 神奈川県横浜市中区新山下3丁目12番1号
TEL:045-628-6100(代表) FAX:045-628-6101



<http://www.yokohama.jrc.or.jp/>

みなと赤十字

検索

病院ホームページ